登録商標
田中家通信
発行
田中家石材
彦根市高宮町108-1
Tel. 0749-24-2789
VOL. 5

初詣（はつもうで）

「一年の計は元旦にあり」とよくいわれていますが、新しい年を迎えて旧年中の御加護に感謝し、これから一年、家族全員が幸せに過せますようにと願いを込めて、神社にお参りすることを初詣といいます。

私たちが住む地域には、そこに暮らす人々『氏子』をお守り下さる氏神さまがお祀りされています。年が明けて家族に「明けましておめでとう」と挨拶をするように、神さまに新年の御挨拶のため、ぜひお参りしましょう。

お正月料理

『おせち』は本来神様へのお供え物

おせちはかつて「お節供（せちく）」といい、節句のときに神様に供えた物をさす言葉でしたが、節句のなかでも重要なお正月の料理にその名前が残ったものです。

伝統的には五段重ねで、中身のお料理それぞれにも、一年の健康と幸福を願ったいわれがあります。

おせちの食材のいわれ

○**えび**
腰が曲がるまで長生きするように。

○**昆布**
「よろこぶ」に通じる。
巻き物は文化の象徴。

○**かずのこ**
たくさんの卵で子孫繁栄を願う。

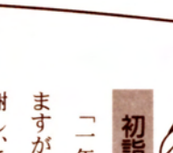
○**鯛**
「おめでたい」に通じる。

○**れんこん**
穴があいているので「先の見通しが良い」とされる。

○**黒　豆**…まめに暮らせるように。

○**田作り**…豊作を願って。

また、品数は五品、七品など奇数で詰めます。



お金がなくてもできる七つの施し

思いやりというものは、ほんの些細な行動であらわすことができ、誰にでもできることなのだ。昔から日本で親しまれてきたお経に「雑宝蔵経」がある。このなかに、無財の七施という、お金がなくても人に対して施しができるという教えが説かれている。

第一は**眼施（げんせ）**といって、人に対して優しいまなざしを向けるだけで、人をなごませ快い気分にさせることができる。

第二は**和顔施（わげんせ）**で、眼だけでなく顔全体が和やかであれば、それも人をなごませることができる。

第三は**言辞施（ごんじせ）**で、やわらかい言葉で、口先だけではない心の籠もった言葉で語りかけるだけで、相手を幸せな気持ちにさせることができる。

第四は**身施（しんせ）**で、言葉ではなく何か具体的な行動を起こして、相手のためになることをする。

第五は**心施（しんせ）**で、真心をもって相手に対することで、良いことをしても心がこもっていなければ、本当の親切にはならない。

第六は**床座施（しょうざせ）**で、相手のために場所を空けてあげる。つまり限りあるものを互いに分かち合い、譲り合う気持ちをもつこと。

第七が**房舎施（ぼうしゃせ）**で、気持ちよく一夜の宿を提供してあげる。つまり困っている人には、喜んで手を貸してあげようということだ。

たとえば電車のなかで知り合いと会って、にっこり笑って久し振りと心を込めて挨拶し、自分の隣の席を空けて座らせる。これだけで眼施、和顔施、言辞施、床座施の四つの思いやりをなしたことになる。

©「歴史から消された日本人の美徳」　黄　文雄　著より

マメ知識

「玄関（げんかん）」

もとは禅の世界の言葉で、仏教の道へ入ること。「**玄**」は幽玄、玄妙のことで、奥深い仏教の道理を表す。「**関**」は関門、入り口の意味。

今日のように、建物の入り口を指すものではなかったが、のちには禅寺の書院や客殿の入り口を**玄関**と呼んだ。

今ではどんな建物の入り口でも玄関といっているが、庶民の家の出入り口を玄関と呼ぶようになったのは、江戸時代以降。それまでは、武士階級だけに許された特権だったという。

「ひどい」

仏教では、さとりを求めて行う修行を「道」といい、その道から外れることを「非道」という。修行上の好ましくない行い、これが転じて、残酷なことや、むごい様子を表す形容詞の「**非道い（ひどい）**」となった。

また、並外れている状態を意味するときにも使われ、「ひどい暑さ」「ひどく痛む」などという。ほかに、非常に悪いという意味で、「ひどい成績」「ひどい身なり」ともいう。

「袖すり合うも他生の縁」

見知らぬ人同士が道ですれ違う時、袖が触れ合うことがある。それほど些細なこと、わずかなふれあいにも深い因縁がある、という意味のことわざ。「**袖振り合うも多生の縁**」ともいう。

「**他生の縁**」は、今生（今、生きている現世のこと）ではない、前生（過去、前世）や後生（未来、来世）にわたる縁のことで、因果応報や輪廻（生まれ変わり）の考えがもとになっている。

また、袖を使った言い回しには、人間関係を表現したものが多い。

「**袖を振る**」とは別れを惜しむこと、「袖を引く」とは人を誘うこと、連れたつことを「袖を連ねる」という。

「頑張る」

人を励ます時に「頑張って」などという。努力やがまん、困難に勝つというニュアンスが強く、どちらかというとプラスの意味合いがある。もとは「**我張る**」で、それが変化したものといわれる。仏教では、自分の考えに執着することはよくないとされていることから、決してプラスの意味ではない。

現在でも、自分の意見を押し通すことを頑張るという。また、その場を動かないことを指す。

季の詩

「凧」

凧が空高く飛べるのは
誰かが糸を
引っぱっているから
でも凧は
その糸さえなければ
もっと自由に
空を飛べると
思っている
その糸がなければ
地上に
落ちてしまうのも
知らずに

産経新聞より

創業明治四十一年　**株式会社　田中家石材**
（お墓）（墓地）等、石に関するご相談は
0120-68-1082
全優石　全国優良石材店
田中家石材

■会社概要
●許可登録／滋賀県知事許可　第〇五一二七四号
●営業品目／寺院関連製品（各宗派吉相墓・記念碑等）
社寺関連製品（鳥居・記念碑・狛犬・灯籠・玉垣等）
環境石材製品・モニュメント・公園石施設・美術工芸品等
●技術資格／化石・鉱物・宝石・岩石・珍石等
厚生労働大臣認定　石積一級技能士
厚生労働大臣認定　石貼一級技能士
厚生労働大臣認定　石材加工一級技能士
◆松下電工労働組合加盟店　◆ブリヂストン生協加盟店
◆財務省印刷局彦根朝陽会加盟店

高級墓石、常時百基を大切に「屋内展示」致しております。